

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
38	川崎市立 下沼部小学校	清水 弘彦

学校教育目標	今年度の重点目標
(知)よく考え、すすんで学習する子ども(やりぬく力)	I 新しい社会を創り出す能力や態度の育成に取り組む

評価項目		具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	主体的・対話的で深い学びの追求	基礎・基本の学力の定着を図り、教材との出会い、友達との出会いにより、主体的に動き出し、共に学びをつくりあげる姿を追求する。	「自由進度学習」、「複線型学習」など新しい学習形態を広く研修する機会を得て、子どもたちが自ら主体的に動く学習を創造することができた。	子どもたちが主体的に学習したいことを見つけ、動き出す姿を支援するだけでなく、遅れがちな子どもへの支援策を模索していきたい。
2	児童が安心・安全な学校生活を送るための指	互いを思いやる子を育成するために、人権尊重教育の一層の充実を図り、ペア学年活動を充実させ、安心・安全な学校を推進していく。	ペア学年活動の在り方を見直し、学年同士全体で関わるような活動にしたことで、誰にとっても負担なく進めることができた。	子どもたちの中では、学年が異なると、接点が極端に減ることもあるため、異学年交流の日を積極的に設定し、距離を縮めていきたい。
3	明るく健康な子どもの育成	授業や行事、休み時間などを通して外遊びや運動の定着を図る。また放課後校庭開放における遊具の充実を図る。	児童数の関係で、休み時間に校庭を使えないこともあるが、放課後校庭開放も含め、のびのびと体を動かす児童は増えた。	丈夫で健康な体になるために、体を動かすことに加えて、バランスの良い食生活も大切になるため、食育にも力を入れて進めていきたい。
4	GIGAスクール構想の確かな理解と推進	GIGA端末の有用性を教職員間でさらに理解を深め、学習場面で子どもたちが無理なく知識の習得・活用・探究できる環境を整える。	学習場面での有効な活用をさらに追及するとともに、子どもたちには、マナーを守り、互いに心が通い合う利用方法を促していく。	教職員の生成AIの利用が開始されたことを受け、いづれ子どもたちも利用していくことを見据え、研修を深めていく。
5	あいさつ運動の徹底	あいさつがもっと身近になることを願い、今年度は教職員が率先して外に出て、あいさつをする活動を取り入れた。	代表委員会を中心に、子どもの側からあいさつの大切さ、有効な手立てについて話し合うことができ、あい	今後、保護者や地域にも広く呼び掛けるとともに、教
6	教職員全体の資質能力向上	子どもたちへのより有効な指導へ結びつけられるように、教職員のニーズに沿う、より充実した職員研修を企画・実施していく。	教職員が年度初めや前期後期末等に取り組むべき事務作業を確認したり、授業のポイントを短くまとめて確認する機会が充実していた。	職員を含む大人が率先してあいさつができるような環
7	地域の教育力を生かした教育活動の推進	開かれた学校をめざすとともに、子どもにとっても地域に貢献できるような教育活動を推進し、地域の教育力を活用し、交流を深める。	さまざまな教育活動を通じ、地域の方々の温かさが感じられた一年だった。子どもの思いと地域の思いをさらに強化していきたい。	経験年数によって、教職員の事務能力には差が出やすいため、全体の底上げを図るべく、さらにニーズを探るようにしたい。
8	幼保小、小中の一層の連携	小1プロブレム、中1ギャップを極力なくすため、近隣の幼稚園保育園との一層の連携と小中のつながりをより一層強化していく。	今年度は例年行われている「よっほいしよの会」に加えて、中原区内の幼保小に呼びかけて、情報交換、講演を実施することができた。	教職員の描く地域像をさらに明確化し、理想に向けて児童や地域に呼びかけ、具体化させようと、活動を充実させていきたい。
				大人だけがつながる意識をもって研修会を実施していたが、より連携を模索するため、子ども同士のつながりも意識していきたい。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・学校運営協議会の場で、子どもたちが自分たちの視点でこの学校を捉え、GIGA端末でまとめたことを自分たちの声で伝えてくれたことに感動した。 ・行事の時はもちろん、平日の授業参観の時も参加される保護者が多く、普段からの学校に対する関心の高さがうかがえた。 ・登下校時のマナーも以前に比べると大きく向上しており、あいさつも大きな声でしてくれるようになり、とてもうれしい。	今年度は、対外的な大きな発表をともなう行事がなく、落ち着いた状態で学校を運営することができた。要望の多かった運動会を11月に移行したことで、保護者からの評判も良かった。また、例年4月5月は運動会準備もあり、あわただしい状態になりがちであるが、今年度は特に年度初め落ち着いた環境のもと活動を進めることができた。 またDX化に伴い、学校だよりを始めとして、学校から発信される文書もデータ化されるようになった。来年度はさらなる効率化をめざしていきたい